

ごあいさつ

昭和60年度から13年の歳月をかけ、『静岡県史』全35巻が刊行されました。この間に県内外で調査・収集された約16万点にのぼる膨大な資料は、県民共有の貴重な財産として、現在、県立中央図書館歴史文化情報センターにおいて保存、整理されています。そして、資料所蔵者の御承諾をいただいた資料については、センター内で、また一部はインターネット上で公開し、利用されています。

中学校学習指導要領では、身近な地域の歴史や具体的な事象の学習を通して、歴史に対する興味や関心を高めることを社会科の歴史的分野の目標としてうたっています。また、高等学校学習指導要領では、地理歴史科の中で身近な生活文化や地域社会にかかわる学習を、日本史A、Bの内容として掲げています。平成16年度に策定した静岡県版カリキュラムにおいても、「静岡県ならではの」を生かした内容として、身近な地域の歴史を調べる活動を重視しています。

このように歴史の学習において、生徒一人ひとりが身近な地域の歴史を調べ、学ぶことで地域への興味・関心を高めるとともに、地域の具体的な事柄とのかかわりの中で我が国の歴史を理解し、歴史の学び方を身に付けていくものと思います。授業を担当する教師は、県内の歴史資料の存在や、日本史全体の中でのその資料の位置づけを深く理解し、把握した上で授業を展開することが求められています。

このたび、県内の中学校・高等学校などにおいて、歴史の授業を行っている先生方を中心に本書を作成しました。本書は60のテーマを設定し、1テーマ見開き2ページで、郷土の資料を通してその時代の動きが見通せるような叙述となっています。教師の視点から捉えた各文章を読んでいただき、教師一人ひとりが本書を活用することで、より充実・工夫した授業が展開され、さらには、本書を手引きとして『静岡県史』が授業でより一層活用されることを願ってやみません。

本書を刊行するにあたり、執筆に御尽力いただいた各委員をはじめ、写真資料等の提供に御協力いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

平成21年1月

静岡県教育委員会教育長 遠藤亮平